

平成 2 2 年度

金沢市埋蔵文化財調査年報

平成 2 3 年 3 月
(2 0 1 1 年)

金 沢 市

(金沢市埋蔵文化財センター)

例 言

1. 本書は、金沢市都市政策局歴史遺産保存部文化財保護課および金沢市埋蔵文化財センターが平成22年度に行った埋蔵文化財保護行政の概要、成果および結果を公表することを目的として刊行するものである。
2. 本書は、平成22年度に実施した埋蔵文化財の発掘調査、分布調査、および教育・普及・啓発活動に関することを中心に編集したものである。
3. 本書に掲載した埋蔵文化財の遺構・遺物等の写真は、それぞれの担当者が撮影した。

目 次

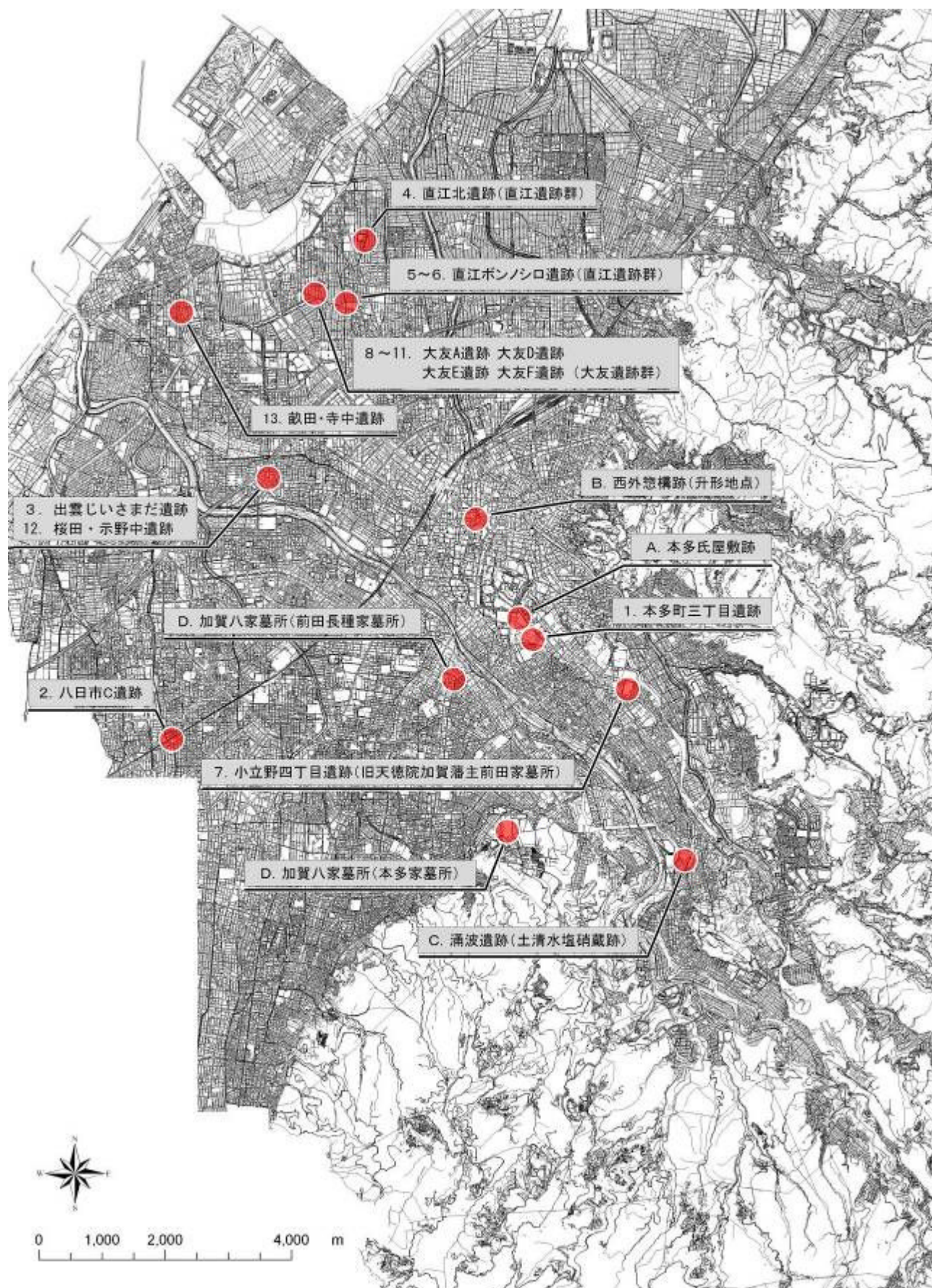
1. 埋蔵文化財発掘調査等事業	1
2. 埋蔵文化財分布調査事業	26
3. 教育・普及・啓発活動事業	30
4. 組織.....	33

1. 埋蔵文化財発掘調査等事業

(1) 埋蔵文化財発掘調査等一覧

No	調査地	調査面積	調査原因	調査期間	立地	経費(千円)	出土遺物数	時代	主な遺構	主な遺物
緊急発掘調査										
本多町三丁目遺跡										
1	金沢市 本多町三丁目地内	860㎡	資料館建設 (公共)	20100506 ～ 20100816	河岸段丘	15,283	90箱	江戸	道路 水路 井戸 土坑	陶磁器 土器 木製品 石製品
八日市C遺跡										
2	金沢市 八日市二丁目地内	140㎡	鉄道建設 (公共)	20100517 ～ 20100531	扇状地	1,830	1箱	奈良	ピット 土坑 溝	須恵器 土師器
出雲じいさまだ遺跡										
3	金沢市 戸板第二土地区画整理 事業施行地区内	3,500㎡	小学校新築移転 (公共)	20100708 ～ 20110228	沖積地	33,837	220箱	弥生 古墳 平安	掘立柱建物 井戸 溝 大溝 土坑 大型土坑	弥生土器 土師器 須恵器 管玉 勾玉
直江北遺跡【直江遺跡群】										
4	金沢市 直江町二丁目地内	1,550㎡	区画整理 (民間)	20100720 ～ 20101018	沖積地	21,803 (5と合算)	10箱	縄文 弥生 古墳 古代 中世	ピット 土坑 溝	縄文土器 弥生土器 土師器 須恵器 陶器 石器
直江ボンノシロ遺跡【直江遺跡群】										
5	金沢市 直江町口地内	750㎡	区画整理 (民間)	20101012 ～ 20101126	沖積地	21,803 (4と合算)	20箱	古墳 古代 中世	ピット 土坑 溝	弥生土器 土師器 須恵器 陶器 石製品 木製品 金属製品
直江ボンノシロ遺跡										
6	金沢市 直江町口地内	900㎡	公民館建設 (公共)	20101129 ～ 20101224	沖積地	4,230	2箱	縄文 古墳 古代	ピット 土坑 溝	縄文土器 土師器 須恵器
小立野四丁目遺跡(旧天徳院加賀藩主前田家墓所)										
7	金沢市 小立野四丁目地内	400㎡	小学校改築 (公共)	20100726 ～ 20101006	台地	3,500	2箱	江戸	堀	瓦 陶磁器
大友A遺跡【大友遺跡群】										
8	金沢市 大友町二地内	1,620㎡	区画整理 (民間)	20100801 ～ 20110124	沖積地	38,000 (9、10、11と合算)	5箱	古墳 奈良	ピット 土坑 溝	土師器 須恵器 木製品
大友D遺跡【大友遺跡群】										
9	金沢市 大友町一地内	2,000㎡	区画整理 (民間)	20100909 ～ 20101213	沖積地	38,000 (8、10、11と合算)	5箱	古墳	溝	土師器 須恵器
大友E遺跡【大友遺跡群】										
10	金沢市 大友町二地内	430㎡	区画整理 (民間)	20101201 ～ 20110124	沖積地	38,000 (8、9、11と合算)	2箱	弥生 古墳 奈良	建物跡 土坑 溝	土師器 須恵器
大友F遺跡【大友遺跡群】										
11	金沢市 大友町二地内	1,700㎡	区画整理 (民間)	20101201 ～ 20110124	沖積地	38,000 (8、10、11と合算)	20箱	古墳 奈良	建物跡 土坑 溝	土師器 須恵器
桜田・示野中遺跡										
12	金沢市 戸板第二土地区画整理 事業施行地区内	1,000㎡	区画整理 (民間)	20110826 ～ 20111026	沖積地	7,230	15箱	弥生 古代	平地式建物 土坑 溝	弥生土器 玉原石
畷田・寺中遺跡 ※小規模立会調査										
13	金沢市 木曳野土地地区画整理 事業施行地区内	70㎡	店舗建設 (民間)	20110623 ～ 20110702	沖積地	-	1箱	古墳	土坑 溝	土師器
学術調査										
本多氏屋敷跡 ※試掘及び測量調査										
A	金沢市 出羽町、本多町地内	12㎡	学術調査 (公共)	20101104	丘陵	1,360	2箱	江戸	道跡	陶磁器
西外惣構跡(升形地点)										
B	金沢市 本町一丁目地内	100㎡	学術調査 (公共)	20101122 ～ 20101217	扇状地	4,621	40箱	江戸	表堀の堀 掘立柱建物	陶磁器 土器 鉄滓
涌波遺跡(土清水塩硝蔵跡)										
C	金沢市 涌波町突地内	100㎡	学術調査 (公共)	20101125 ～ 20101221	河岸段丘	2,940 (土地借上代含む)	3箱	江戸	縮具所跡 硝石置場跡	瓦 陶磁器 土師器
加賀八家墓所(本多家墓所 前田長種家墓所) ※測量調査										
D	金沢市 長坂町一丁目地内 野町三丁目地内	2,400㎡	学術調査 (公共)	20101122 ～ 20101217	丘陵 台地	3,520	-	江戸	墳墓	-

(2) 埋蔵文化財発掘調査等位置



(3) 埋蔵文化財発掘調査概要

1. 本多町三丁目遺跡

〈遺跡番号 新発見のため番号なし〉

所在地：金沢市本多町三丁目地内

北緯 36° 33′ 28″

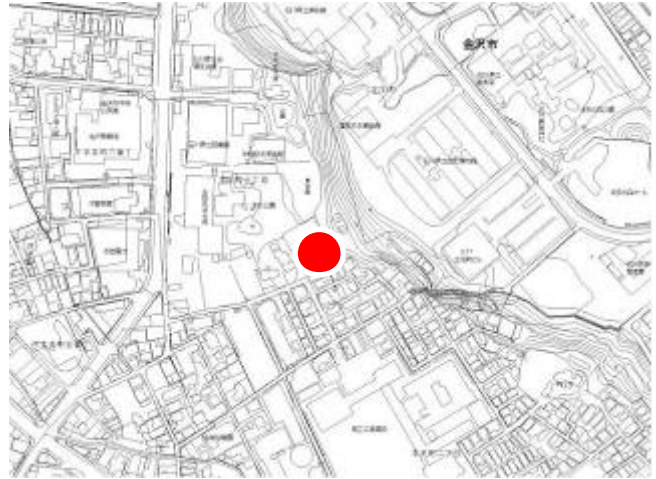
東経 136° 39′ 40″

調査面積：860 m²

種別：城下町

主な時代：江戸

担当：庄田 主任主事



遺跡の概要

本遺跡は市街地中心部にある金沢城南東の旧城下町内あたる。藩政期には、藩重臣である八家のひとつ、本多家の下屋敷地（陪臣や親族の居住地）であった。当地に、鈴木大拙館（仮称）新築工事が予定されたため、記録保存のための緊急発掘を実施した。

調査地は、寛文7年（1667）の城下図では本多家下屋敷、江戸中期以前と考えられる下屋敷絵図（藩老本多蔵品館蔵）では本多家陪臣屋敷地となっている。江戸前期以降は本多家下屋敷地だったと考えられる。また、調査地北東隣接地である小立野丘陵斜面裾部付近には平坦地が形成されており、これは石浦神社の前身である「慈光院」跡と考えられる。慈光院は明治13年に石浦神社として現在地に移転した。

発掘調査では、本多家下屋敷を北西から南東に貫く中核道路の延長となる廃止された道跡（幅約5.4m）と、その道跡から東に折れ、慈光院へと続く参道が、石積み側溝をともなう砂利道として検出された。また、下屋敷絵図における陪臣屋敷地の屋敷境と推定される位置付近において、南北方向には辰巳用水分流跡、東西方向には連続する土坑が見つかった。各屋敷跡地内からは、石組み井戸、石積みを伴う池状遺構、ゴミ穴等の土坑、石組みの土坑、塀基礎の石積みなどが見ついている。江戸時代の遺構のうち、最古のものは調査区北西部の慈光院参道に近い土坑で、17世紀前半の陶磁器を伴うものであった。慈光院は、慶長7年（1602）に調査地に隣接する土地に移転してきたとされ、参道付近は、周辺でも最も早い段階で開発が始まった区画と考えられる。また、辰巳用水分流遺構は、古段階と新段階が見ついている。古段階水路は、幅約60cm、残存高約40cmの石積み水路で、中核道路の東脇（家臣屋敷地の前面）に流れており、東から西へ流れたあと、カーブして北西へ向きを変えている。新段階水路は、幅約60cm、残存高約40cmの石積み水路で、古段階水路の約9.6m東側に移動、家臣屋敷地の間（背割り部分）を流れていたと推定され、確認範囲が短い、南東から北西へと流れていた。構築時期は不明（石積みの様子から19世紀代）だが、廃絶は近代以降と考えられる。

本調査により、本多家下屋敷内における道路の構造や屋敷内・周辺設備のあり方、使用していた什器類の変遷を知る貴重な資料を得ることが出来た。

また、遺構の存在は確認できなかったが、江戸時代の遺構が掘り込む堆積層において、厚さ約1mにわたり鎌倉～室町期の珠洲焼、加賀焼の破片や、平安期の土師器椀、須恵器坏などの破片が散布することを確認した。隣接する慈光院跡は、中世石浦氏の砦跡との伝説もあり、周辺における古代・中世期の遺跡の分布を暗示させるものであると考えられる。



下屋敷の中核道路跡と辰巳用水分流(古段階)



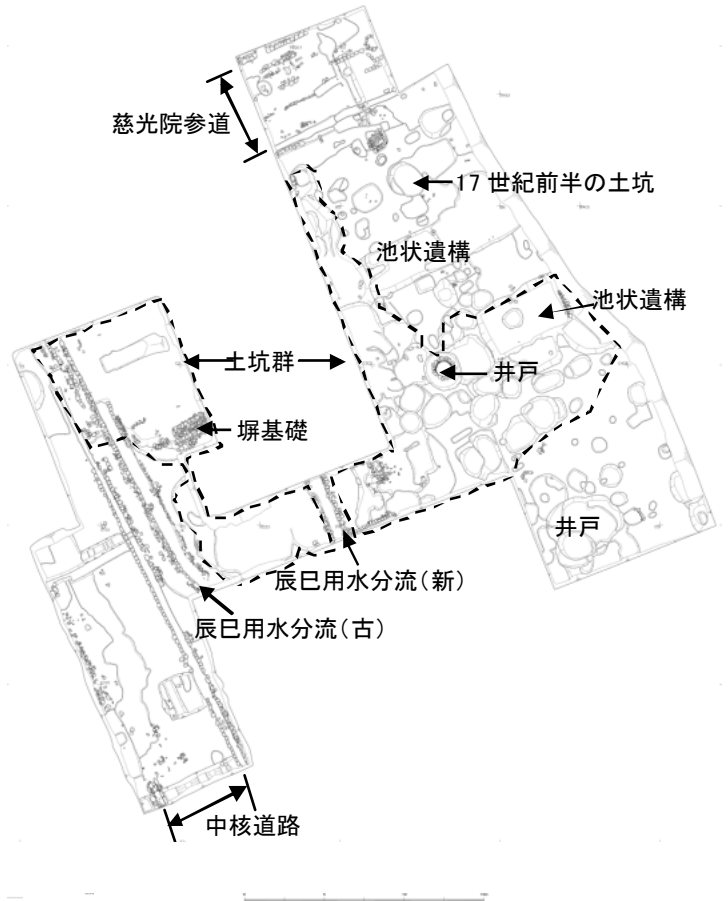
辰巳用水分流(新段階)



屋敷境付近の土坑群



石組み井戸



遺構全体図



石積みを伴う池状遺構



塀基礎の石積み

2. ^{ようかいち}八日市 C 遺跡

〈遺跡番号 新発見のため番号なし〉

所在地：金沢市八日市二丁目地内

北緯 36° 32′ 44″

東経 136° 36′ 22″

調査面積：140 m²

種 別：集落跡

主な時代：奈良

担 当：谷口 主任主事



遺跡の概要

八日市 C 遺跡は金沢市の西部、野々市町との境界にごく近い J R 北陸本線沿いに位置する。手取川により形成された扇状地の端部、砂質土と礫が互層をなす水はけの良い土壤に立地する。遺跡周辺は住宅地が拡がり国道 8 号線や J R 野々市駅からも近く人口の密集する地区である。

本遺跡の発掘調査は北陸新幹線建設工事に伴い実施したもので、昨年度の第 1 次・第 2 次調査に引き続き実施した第 3 次調査である。調査は新幹線橋脚部分のうち在来線旧側道部分約 160 m²が対象であったが、旧側道の北側でコンクリート製暗渠が埋設されており、これにより調査予定地の北側約 20 m²分の遺構が既に破壊されていることが判明したため、残る 140 m²を調査対象とした。発掘調査は平成 22 年 5 月 17 日から同月 31 日まで実施した。

調査区は昨年度に発掘調査を実施した A 区の北に隣接し、調査区形状は北東—南西に細長い長方形を呈する。調査区全体を通して遺構検出面は礫層が基本となり、部分的に黄褐色シルトが入り込む。遺構は検出面に黒色、灰色、茶褐色の粘質土が切る形で存在する。調査区内の中央付近は建物基礎により遺構が破壊されている。

遺構は土坑 2 基、溝状遺構 4 条、ピット数基を確認した。調査区の中央やや西寄りで確認された土坑 SK02 は調査区を南北に縦断する形で検出されており、検出状況から一辺 3~4m の方形を呈する竪穴建物跡と考えられる。河原石が混入する黄褐色土を掘り込んだ内部に黒褐色土が堆積した形で検出されており、昨年度調査で検出された竪穴建物跡と構造が酷似する。また、SK02 の北東角で検出した平面形が不定型な土坑 SK01 の内部からは熱を受けて赤く変色した土が確認されており、その状況から竪穴建物の内部に設置されたカマド状設備の可能性が考えられる。この点も昨年度調査の竪穴建物跡と酷似する。また、SK01 からは奈良時代の土師器破片が数点出土しており、これらの点から SK01 及び SK02 は当該期のカマド状設備を持つ竪穴建物跡であると考えられる。その他、調査区の南西部で溝状遺構を 4 条確認しているが、検出範囲が狭いことと出土遺物が皆無であったことからその性格は不明である。また、ピットを 10 基程度確認しているが、建物の柱跡と判断されるものはなかった。出土遺物は前述した SK01 出土のものを含め調査区全体で奈良時代の土師器約 30 点と須恵器 1 点であった。

北陸新幹線建設工事に伴う八日市 C 遺跡の 2 ヶ年にわたる発掘調査の結果、本遺跡には大きく古墳時代と奈良時代の集落跡が存在することが判明した。

奈良時代の主な遺構としては竪穴建物跡と掘立柱建物跡を各 3 棟ずつ確認しており、本遺跡の主体は当該期の集落であることが見ることができる。特に、21 年度調査で検出された四面庇建物跡は非常に珍しい形態であり、同様の建物跡の確認事例は石川県下では小松市と金沢市で各 1 例ずつに留まってお

り、仏堂のような特殊な用途に供された施設であったと考えられる。さらに四面庇建物の周囲に竪穴建物や掘立柱建物が配置されるという状況が確認されたことで、当該期の集落の建物配置が復元できる。加えて、21年度調査区の北東部及び南西部で遺跡の端部を示す落ち込みを確認していることから、北東-南西方向における集落の規模も復元される。

また、本年度調査では確認されなかったものの、21年度調査では古墳時代の溝状遺構と土師器を検出していることから、当該期の集落が近郊に存在している可能性が高く、当該期の本遺跡は集落の縁辺部にあたるものと思われる。

さらに、わずかではあるが21年度調査で鎌倉時代の珠洲焼破片が数点出土していることから、当該期の集落が近郊に位置している可能性も考えられる。

以上、本遺跡は古墳時代の集落縁辺部及び奈良時代の集落の中心部と考えられ、特に後者の時期における集落の様相を復元できる遺跡として評価できる。



調査区全景



SK01 SK02



調査区南西部 溝状遺構



調査風景

3. 出雲じいさまだ遺跡

〈遺跡番号 県：01100 市：160H〉

所在地：金沢市戸板第二土地区画整理事業施行地区内

北緯 36° 34' 38"

東経 136° 37' 32"

調査面積：3,500 m²

種別：集落跡

主な時代：弥生、古墳、平安

担当：前田 主任主事



遺跡の概要

この遺跡は、平成14～16年度に区画整理を契機として道路部分の発掘調査が行われたことがある。今回の調査で検出された遺構のほとんどが古墳時代前期のものであり、かつての調査では一定量検出された奈良・平安時代のものは極めて少なかった。以下、古墳時代の遺構を中心に述べる。

調査区内には空閑地がなく、大溝、溝、柱穴、土坑が大量に検出された。

掘立柱建物は柱穴に柱を直接据えたもの、柱の下に礎板を据えたもの、布堀状のもの3種類がある。同じ場所で何度も建て替えられていて柱穴が重複しているため、建物の棟数や規模は今後検討する必要がある。平地式建物は周溝を持つものが1棟検出された。

土坑の中でも長さ1.5mほどの整った長方形をしており、底が平らで、水平に土が堆積しているものは墓穴である可能性がある。不整形で浅く、大量の土器や炭化物が堆積しているものは土器を廃棄するためのごみ穴と考えられる。

井戸は大小2種類があり、どちらも素堀で、底に完形の土器が1、2個残されていた。

大溝の上面は必ずと言ってよいほど大量の炭化物と土器が堆積していた。地山と酷似した堆積土をもつ溝からは、弥生時代終末の遺物が出土した。

大小さまざまな遺構に古墳時代の勾玉・管玉や玉づくり関連遺物（玉や玉器の未完成品、原石、剥片）が混入していたが、工房と考えられる場所は発見できなかった。しかし弥生時代の玉づくり遺跡として既に知られている桜田・示野中遺跡にごく近接しているので、弥生時代から古墳時代にかけて、この遺跡付近では伝統的に玉づくりを行っていたといえよう。



平地式建物



土器廃棄用の土坑

4. ^{なおえきた}直江北遺跡（直江遺跡群）

〈遺跡番号 新発見のため番号なし〉

所在地：金沢市直江町ト・リ地内

北緯 36° 35′ 01″

東経 136° 44′ 51″

調査面積：1,550 m²

種別：集落跡

主な時代：縄文～中世

担当：向井 主任主事



遺跡の概要

直江遺跡群は金沢市北西部に所在しており、日本海へは約3 km、河北潟と日本海を結ぶ大野川へは約1 kmの距離という臨海地帯に立地する。直江北遺跡は直江遺跡群のなかで最も北に位置している。平成19年度から調査を行っており、今年度はこれまでに実施した外環状道路側道（都市計画道路 福久・福増線）部分の法面部分について⑤～⑯の12調査区を設定して、調査を実施した。

⑤～⑧区は平成19年度、21年度調査区に隣接しており、古墳時代の溝や井戸の可能性が考えられる大型の土坑が検出されている。

⑨～⑭区は平成19年度、20年度調査区に隣接しており、縄文時代晩期頃の川や穴、弥生時代末頃から古墳時代頃の穴や溝が検出されている。特に⑪区、⑫区では弥生時代末頃から古墳時代前期にかけての溝や土坑、穴などが密に検出されており、既往の調査成果を鑑みると溝は集落を画するような性格を持っている可能性が高い。

⑮区、⑯区は主に平成19年度調査区に隣接しており、弥生時代中期～末頃の溝や穴を検出した。

以上、細かな調査区が多かったが、それぞれ既往の調査成果を補完するような成果がでたと評価できる。特に古墳時代の集落を区画する溝のつながりが確認できたことは大きな成果といえよう。また、縁辺の調査区では、弥生時代末頃から古墳時代前期頃の集落の広がり具体的な遺構で確認でき、さらに縄文時代晩期頃の土器が見つかったことで、各時代の集落の広がりがより明らかとなった。



⑤区 縄文土器出土状況



⑪区 古墳時代の土器出土状況

5. ^{なおえ}直江ボンノシロ遺跡（直江遺跡群）

〈遺跡番号 新発見のため番号なし〉

所在地：金沢市直江町口地内

北緯 36° 36′ 10″

東経 136° 37′ 58″

調査面積：750 m²

種 別：集落跡

主な時代：古墳、古代、中世

担 当：向井 主任主事



遺跡の概要

本遺跡は、直江遺跡群の南端付近に所在し、昨年度に引き続いて金沢市副都心北部直江土地区画整理事業にともない街路部分について発掘調査を実施した。

調査区は直江町の旧墓地を含むことから、古墳時代や奈良・平安時代の遺構と共に、江戸時代以降の墓地も多く検出された。

古墳時代の遺構では、川と考えられる大きな落ち込みが検出されたが、大半が江戸から明治頃にかけての川もしくは用水によって消失していた。また、直線的に伸びる大きな溝が検出されたが、これも江戸時代以降の墓地や明治頃の溝により大きく改変を受けている。

奈良・平安時代の遺物が比較的多く出土しているが、目立った遺構はあまり見つからず、これも江戸時代以降に大きく改変を受けたものと考えられる。

その他、鎌倉時代や室町時代の陶磁器などが出土しているが、同時代の明確な遺構は不明であった。

江戸時代の墓からは漆器や鉄鍋、鎌、包丁などが出土している。

以上、遺跡の西側に古墳時代の遺構が広がっていることが確認された。平成 21 年度調査では遺跡の東端で弥生時代以降の川が検出されているので、その川の西側に集落が展開していることが明らかとなった。また、奈良・平安時代の遺物が多く出土していることから、近隣に同時期の集落が展開している可能性が高まったといえる。



古墳時代の溝



中近世頃の鉄鍋、漆器、鎌、包丁出土状況

6. ^{なおえ}直江ボンノシロ遺跡

〈遺跡番号 新発見のため番号なし〉

所在地：金沢市直江町口地内

北緯 36° 36' 10"

東経 136° 37' 58"

調査面積：900 m²

種 別：集落跡

主な時代：縄文、古墳、古代

担 当：向井 主任主事



遺跡の概要

鞍月新文化会館（仮称）建設工事に伴い、構造物によって埋蔵文化財に影響を及ぼす部分について発掘調査を実施した。

調査地は、区画整理事業による平成22年度調査地点と平成21年度調査地点の中間付近に位置する。

発掘調査では、縄文時代晩期頃の土器や弥生土器、土師器、須恵器などが出土している。遺構は疎らであり、建物跡などは未検出である。

既往の調査では、縄文土器は確認できなかったが、今回新たに縄文時代晩期の土器が出土したことで、遺跡の年代幅がさらに広がった。



直江ボンノシロ遺跡全景



縄文土器出土状況

こだつの よんちようめ きゅうてんとくいんか がほんしゅまえだけほしよ
7. 小立野四丁目遺跡(旧天徳院加賀藩主前田家墓所)

〈遺跡番号 新発見のため番号なし〉

所在地：金沢市小立野四丁目地内

北緯 36° 33′ 07″

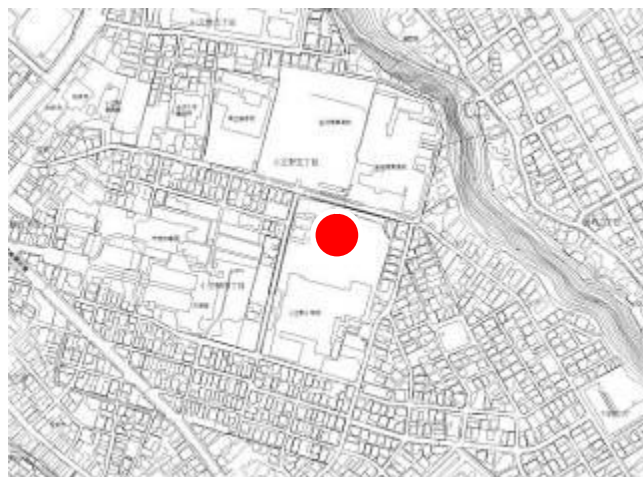
東経 136° 40′ 42″

調査面積：400 m²

種別：墳墓

主な時代：江戸

担当：谷口 主任主事



遺跡の概要

小立野四丁目遺跡は金沢市街地中央の金沢城から南東に約 2.2 km 離れた金沢市立小立野小学校内に位置し、金沢市内を流れる二大河川である浅野川と犀川に挟まれた小立野丘陵上に立地する。

調査地は天徳院の加賀藩主前田家墓所跡地にあたる。加賀藩主前田家の墓所は藩政期においては野田山に初代前田利家から 3 代利常、5 代綱紀から 8 代重熙、10 代重教から 12 代斉広の墳墓が造営され墳墓群を形成していたが、4 代光高及び 9 代重靖の墳墓は小立野の曹洞宗寺院天徳院の境内東側に造営された。小立野四丁目遺跡は旧天徳院境内の加賀藩主前田家墓所跡地にあたり、昭和 27 年に天徳院の加賀藩主前田家墓所を移転して建築された小立野小学校の校舎建替工事に伴い発掘調査を実施したものである。

天徳院は 3 代利常の正室珠（法号：天徳院）の菩提寺として元和 9 年に利常が建立した。利常正室天徳院の墳墓が境内西側に造営され、その後 4 代光高・9 代重靖の墳墓が造営されたが、天徳院墓は五十回忌の寛文 11 年(1671)に野田山へ改葬された。天徳院前田家墓所には光高墓・重靖墓及びその子女墓が戦前まで存在していたが、昭和 27 年に小立野小学校建設用地とされたために野田山の前田家墓所に改葬された。

藩政期の天徳院前田家墓所を描いた史料としては、「天徳院絵図」（天保 10 年頃、金沢市立玉川図書館蔵）など数点がある。これらには共通して天徳院前田家墓所の北側に 4 代光高墓があり、その南に 9 代重靖墓、さらに南に隣接して 11 代治脩嗣子斉敬墓が造営され、これらの墳墓の周囲に方形の堀が巡る様子が描かれている。光高墓の堀は周囲を方形に廻るが重靖墓と斉敬墓の堀は前面に前庭部と呼ばれる開口部があり、野田山前田家墓所の 3 代利常墓以降の墳墓と同様の形態である。

発掘調査は新校舎建設予定地のうち現校舎とプールの間の校庭にて実施した。プールに至る通路があるため調査区は 2 箇所に分かれており、双方の調査区から 4 代藩主光高墓の堀を確認している。堀は幅約 3.5m、深さ約 1.25m の規模があり、堀の内側には石垣が組まれている。石垣は 30 cm 前後の河原石を 5 段高さ約 60 cm に積み上げた状態で検出した。堀の内部からの出土遺物は少なく、18 世紀代の土師器皿と 19 世紀初期のいぶし瓦が数点出土している。また、堀の内外で樹木痕と見られる不定型の凹凸が数箇所を確認されているが、これ以外に明確な遺構は確認されなかった。

さらにこの調査結果を受け、光高墓の堀の規模を確認するため、調査区外においてレーダー探査調査を実施した。この結果、石垣の反応が各所で確認され、光高墓の堀は東西約 50m・南北約 45m の規模で方形に巡ることが判明した。

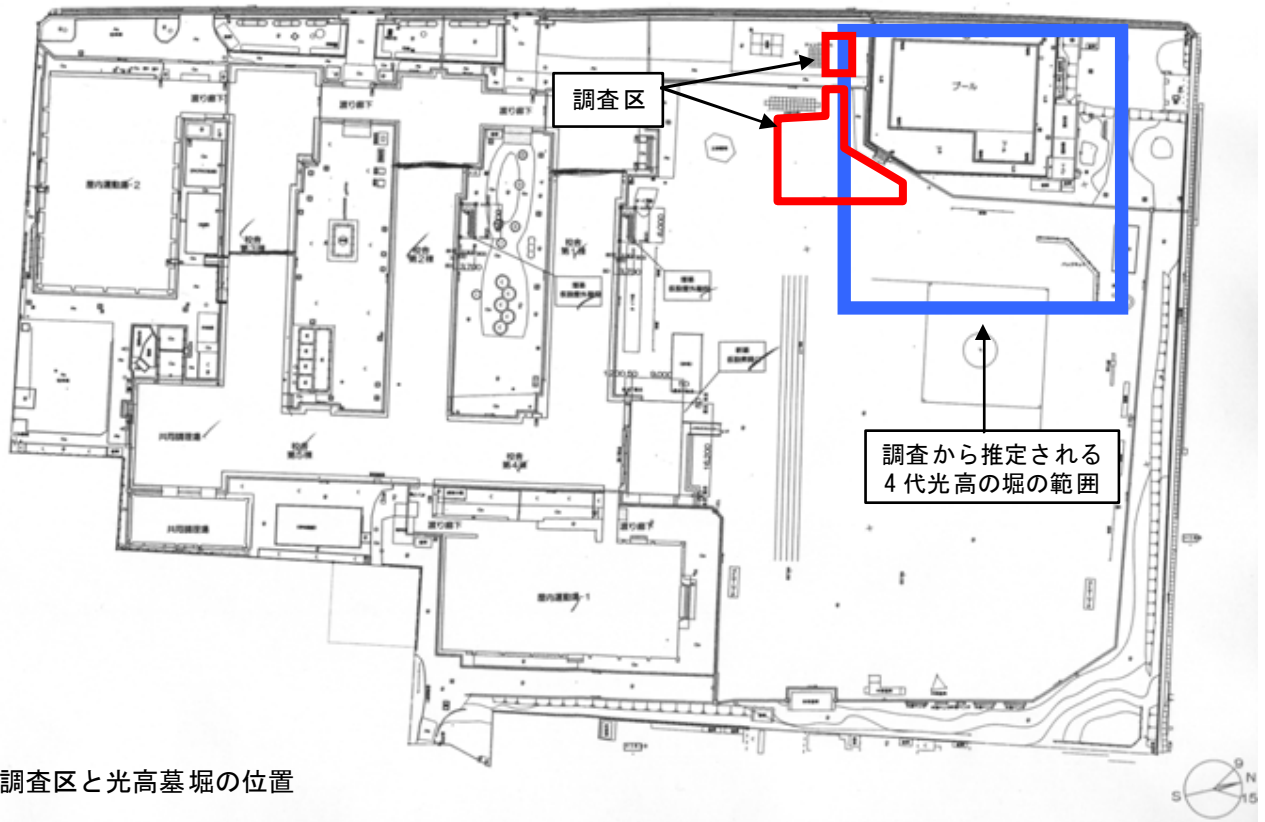
藩主墓の堀の内側に石垣を設ける例は野田山では見られず、富山県高岡市の 2 代前田利常墓に見られるのみである。また、レーダー探査により判明した堀の規模は高岡市の利長墓に次ぐ規模であり、これらのことから光高墓が特別な存在であったことが推定される。



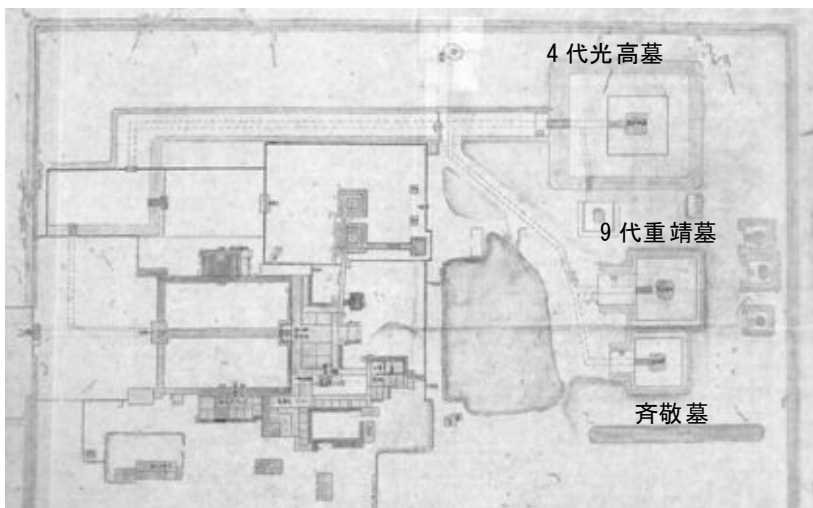
調査区全景



光高墓 堀の石垣



調査区と光高墓堀の位置



天徳院絵図の前田家墓所

おおも 8. 大友A遺跡

〈遺跡番号 県：01295 市：042N・H〉

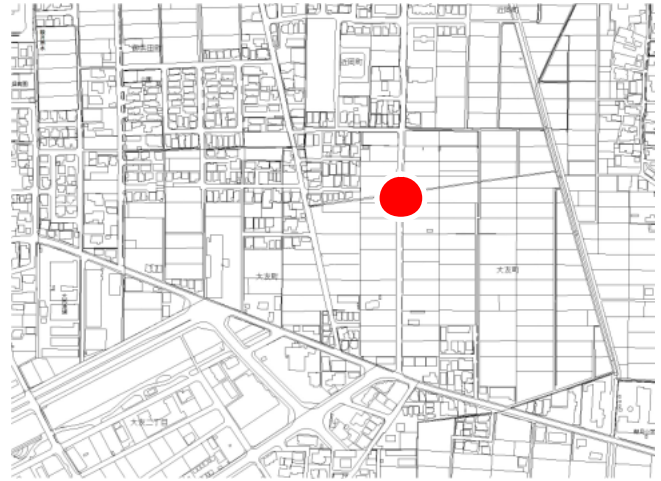
所在地：金沢市大友町ニ地内
北緯 36° 36′ 14″
東経 136° 37′ 45″

調査面積：1,620 m²

種別：集落跡

主な時代：古墳、奈良

担当：谷口 主査



遺跡の概要

大友A遺跡は大友町と御供田町の間に広がる水田地帯に位置し、両町を結ぶ市道の両側に広がる遺跡である。調査区は1～4区の小地区に分けて実施した。溝、土坑、自然流路など古墳時代と古代の遺構を確認した。市道より東側の調査区のうち、北側に位置する地点をA-1地区とした。ここで多数の南北溝を確認した。これらの溝は奈良・平安時代に属するもので、溝の方位が一致するものもある。地割などの何らかの土地の区画に伴った溝であった可能性がある。調査区中央では自然流路を検出し、上層から須恵器や土師器など奈良時代の遺物が、下層から古墳時代の準構造船、鍬状製品や板状製品など木製品のほか、古墳時代後期頃の土器が若干出土している。

A-2地区は、A-1地区の西隣に位置する。後世の削平を受けたため、遺構密度は全体的に薄い。掘立柱建物跡、土坑、溝などを検出し、古墳時代から奈良時代にかけて存続した遺跡であることを確認した。確認した建物跡は、直径約0.3mの円形掘形をもつ側柱建物で、東西2間×南北2間を測り、南側に底がつく。棟方向はほぼ真北と一致し、出土遺物は少なく、時期は不明であるが、古代から中世の時期と考えられる。建物跡の東側では並行する南北溝を検出し、溝の埋土から須恵器の杯身や蓋、甕など奈良時代後期の遺物がまとまって出土した。



河道の完掘状況



準構造船の部材出土状況

おおも 9. 大友D遺跡

〈遺跡番号 新発見のため番号なし〉

所在地：金沢市大友町地内

北緯 36° 36′ 14″

東経 136° 37′ 34″

調査面積：2,000 m²

種別：集落跡

主な時代：古墳

担当：谷口 主査



遺跡の概要

大友D遺跡は海側環状道路の終点に位置する工場跡地の西側に展開する遺跡である。遺跡の中央を南北に横断する農道があり、この農道より東側をD-1地区、西をD-2地区と分け調査を実施した。

D-1地区では古墳時代の河川跡、井戸跡、溝などを確認した。河川跡は南東方向から北西方向に流れている。河川跡より土師器の甕や高坏などの破片が出土した。井戸跡は河川跡より北に30m程離れた地点で確認した。深さが0.8mを測る素堀の井戸で、内部より箸と推測される棒状の木製品が1点出土している。今回の調査で確認した溝はD-1地区では合計8条におよぶ。このうち、L字に屈曲する溝は古墳の周溝と推測され、内部より土師器の高坏が1点出土している。西側の地点では土坑を3基確認し、台付き鉢や高坏などが出土している。

D-1地区より西側にある調査地点をD-2地区とした。ここでは大きな溝が1条、小さな溝が6条、土坑などを確認している。最も西側の調査箇所では区画溝の類であると推測される幅0.6m程の溝が4条並んでいた。また、幅3mを超える河川跡を1条確認している。横断面は皿形を呈し、緩やかに蛇行している。途中河川の方角に沿って0.3m程深く掘り下げている箇所があり、人の手がかえられた河川跡であることが判明した。D-2地区の最も北側の箇所では、幅が3m、深さ0.2mと浅くて広い印象のある溝状の遺構を確認している。調査区の外に延びるため詳しいことはわからないが、先述したD-1地区の古墳の周溝と同じようにL字に屈曲しているようにも見受けられ、古墳の周溝の一部である可能性が高いといえる。



L字の溝検出状況



溝内の高坏出土状況

10. ^{おおも}大友E遺跡

〈遺跡番号 新発見のため番号なし〉

所在地：金沢市大友町地内

北緯 36° 36′ 16″

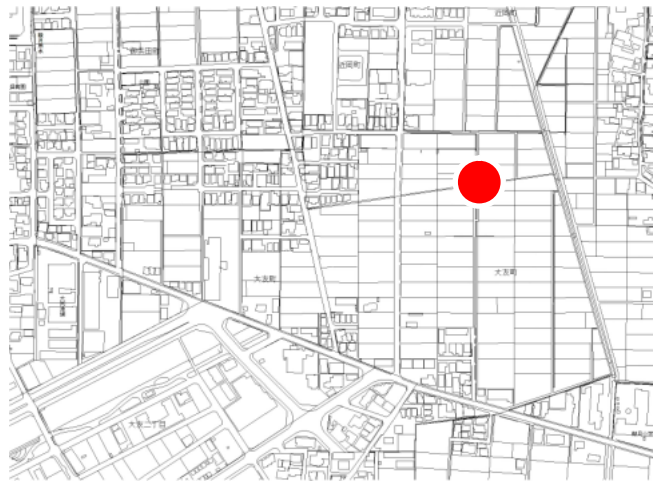
東経 136° 37′ 49″

調査面積：430 m²

種別：集落跡

主な時代：弥生、古墳、奈良

担当：谷口 主査



遺跡の概要

大友E遺跡は、大友A遺跡の北東で近岡町との境に位置する。平地式建物跡、竪穴建物跡、掘立柱建物跡、土坑、溝などを検出した。

平地式建物跡は調査区のほぼ中央で確認した。直径約10mの規模で、支柱穴と考えられる大型の柱穴の周囲に周溝を円形に巡らせた構造を呈している。周溝内から古墳時代前期頃の遺物が出土した。

竪穴建物跡は平地式建物の西隣で確認した。後世の削平を受けているため、浅い掘り込みを残すのみだが、直径6m以上の円形を呈する建物跡と推定される。床面上で炭化した部材や炭が多数出土しており、焼失した家屋の可能性がある。

掘立柱建物跡は調査区の東側で2棟確認した。建物1は東西1間×南北1間の規模で、直径約0.5mの円形の掘形を呈する。建物2は東西1間×南北3間以上の規模で、南側は調査区外へ続く。直径0.4～0.5mの円形の掘形をもち、各建物で確認した柱穴には木柱が残存していた。木柱は全体的に残りが良く、なかには、柱の根元部分に礎板を削り出した木柱もある。

土坑を多数確認している。土坑からは、ほぼ完形の土師器甕や、口縁部に文様が施された加飾壺などが出土した。その他、覆土中に緑色凝灰岩の剥片を含む土坑もある。緑色凝灰岩は玉製品の原材料と考えられるもので、本遺跡の性格を考える上で注目する必要がある遺物といえる。



平地式建物完掘状況



竪穴建物検出状況

11. ^{おおも}大友F遺跡

〈遺跡番号 新発見のため番号なし〉

所在地：金沢市大友町地内

北緯 36° 36′ 10″

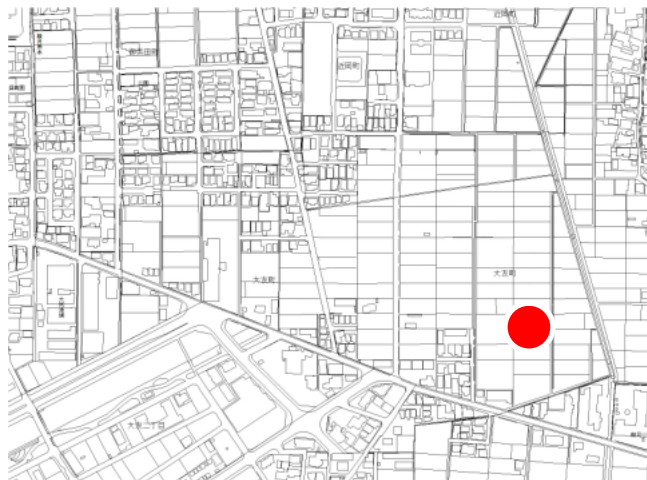
東経 136° 37′ 53″

調査面積：1,700 m²

種別：集落跡

主な時代：古墳、奈良

担当：谷口 主査



遺跡の概要

大友F遺跡は鞍月小学校より西側に広がる水田地帯に位置する遺跡である。掘立柱建物跡、竪穴住居跡、河川跡、溝、土坑等を確認した。掘立柱建物跡は2棟確認した。調査区の中央で確認した建物跡1は2間×2間の建物で正方形を呈する。柱穴の大きさは径約0.3mと規模が小さい。調査区の西側で確認した建物跡2は径約0.6mで柱穴の堀方が深い。かなり大きな建物であったとみられる。竪穴住居跡は1辺が約3mで角の丸い正方形を呈し、覆土に薄い炭の層があった。周辺の土坑でも薄炭の層を確認している。調査区の中央で河川跡を確認した。幅約4m、深さ0.6mと浅い河川跡で、古墳時代の土師器の破片と奈良・平安時代の須恵器の破片などが出土している。遺跡は密度が薄く、集落の端に相当する地点であったと推測される。

井戸は3基確認した。調査区の中程で確認した井戸では古墳時代初頃の甕が2点完全な状態で埋まっていた。別地点の井戸からも土師器の甕が出土している。

南側の調査地点で溝、土坑、井戸跡などを確認した。溝のうち、古墳時代の区画溝あるいは館の区画溝と思われるものを確認した。幅が約1m、深さ0.4m程の浅い溝で、南北の方位に沿って約40mの長さで配置し、両端が直角に曲がっていた。この溝の周囲からおびただしい量の緑色凝灰岩の細かい破片が出土した。また、管玉の未製品や玉髓の勾玉未製品も出土している。土坑からも緑色凝灰岩の破片が出土しており、玉造りに関連した集落であったと推測される。



掘立柱建物検出状況



古墳時代の区画溝

12. ^{さくらだ}桜田・^{しめのなか}示野中遺跡

〈遺跡番号 県：01099 市：161Y・H〉

所在地：金沢市戸板第二土地区画整理事業施行地区内

北緯 36° 34′ 51″

東経 136° 37′ 14″

調査面積：1,000 m²

種 別：集落跡

主な時代：弥生、古代

担 当：庄田 主任主事



遺跡の概要

本遺跡は、金沢平野の北部、犀川と浅野川の下流域に形成された沖積平野の一角に位置している。周辺の地形は平坦で湿潤、土壌は粘土質で耕作に適した環境といえる。そのため人々は古来よりこの地で生活を営んできたと考えられ、周辺は石川県内でも有数の遺跡集中地域として知られている。近年は大規模土地区画整理等を原因とする発掘調査が数多く実施され、この地区の古代の環境がしだいに明らかになりつつある。戸板第二土地区画整理事業地内には、桜田・示野中遺跡をはじめ、出雲じいさま遺跡、薬師堂遺跡が分布する。

本遺跡周辺に分布する遺跡の時代は、縄文時代から平安時代におよぶ。中でも、弥生時代後期～古墳時代前期にかけては、湧水が豊富な沖積平野の環境を活かして稲作農耕を中心に営む集落が数多く形成され、石製装飾品加工（玉づくり）を行う集落群が現れた。奈良～平安時代にかけての遺跡はその質・量ともに優れており、特に畝田から戸水地区に群集する遺跡は律令体制下における役所的な性格を有する港湾関連施設跡が発掘調査により明らかになりつつあり、本事業地周辺でも「石田庄」と墨書された須恵器の器が見つかり、荘園経営にともなう集落遺跡の分布が確認されている。

発掘調査では、弥生時代の建物跡2棟と土坑、奈良～平安時代の建物跡を検出した。

調査区北側では周囲に環状の溝が巡らされる平地式建物跡が2棟見つかった。内法直径10.5mの周溝をもつ平地式建物跡は、南東側の周溝が途切れており入口と考えられる。周溝内部に建っていた建物は、穴を掘って柱を立てる掘立柱建物だったと思われるが、柱穴は確認できなかった。周溝から出土した土器から、弥生時代中期の建物跡と考えられる。内法直径13.5mの周溝をもつ平地式建物跡は、南西側の周溝が途切れており入口と考えられる。周溝に囲まれた円形の平坦地に約3mの柱間隔で正六角形にならぶ6本の柱穴が見つかり、建物跡と考えられる。柱穴のうち4箇所では柱の沈下を防止するために柱の下に敷く礎板が見つかり、うち1箇所では柱の基部が残っていた。周溝から出土した土器から、弥生時代後期後半の建物跡と考えられる。弥生時代後期後半の平地式建物跡は、本調査区南西側の平成15・16年度調査区でも2棟が見つかった。

調査区南側ではそれぞれ直径約1mと2mの円形土坑2基が見つかった。そのうち、直径約2mの土坑は、深さ約50cmの鉢形の掘り方をしており、埋め土からは弥生時代後期後半の土器がまとまって出土した。

調査区南東辺付近では、奈良～平安時代のものと思われる掘立柱建物の柱穴が4基見つかった。そのうち、3基は、南北方向に柱間約2.2m間隔で並んでおり、東側の調査区外に建物跡が続いているものと思われる。

平成 15・16 年の調査成果と併せて北陸自動車道以東の桜田・示野中遺跡を概観すると、本調査区をほぼ境として、北東側に奈良時代、南側に平安時代、南西側に弥生時代の遺跡が分布する。従来の調査では、北陸自動車道以東において弥生時代前期の遺物を散発的に確認していたものの、弥生時代中期までの明確な遺構は確認されていなかった。本調査において、弥生時代中期の住居跡が確認されたことは、この地域の歴史の変遷を知る上で重要な発見となった。



調査区全景俯瞰



平地式建物跡(弥生時代中期)



平地式建物跡(弥生時代後期)



土坑内の土器出土状況
(弥生時代後期)

(4) 学術調査の概要

A. 本多氏屋敷跡

〈遺跡番号 県：01222 市：258C〉

所在地：金沢市出羽町・本多町地内

北緯 36° 33′ 33″

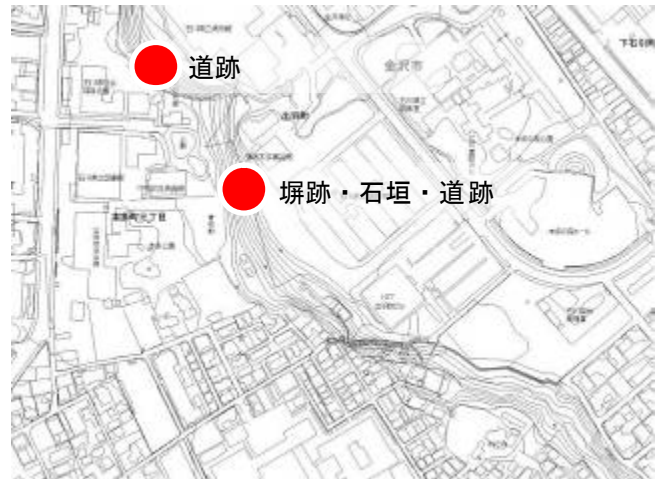
東経 136° 39′ 40″

調査面積：12 m²

種 別：道跡

主な時代：江戸

担 当：庄田 主任主事



調査の概要

旧本多家上屋敷関連遺構が分布する本多の森は、小立野台地丘陵西側斜面一帯で、市街地中心部にあって豊かな植生が残された緑地帯となっている。本市では、平成 21 年度から美術館等文化施設が数多く分布する本多の森周辺に分布する歴史文化遺産の調査を実施しており、昨年度は測量調査・発掘調査により石川県立美術館西側に約 100m の長さの塀基礎の石積み遺構や、その周辺の門跡、上屋敷と中屋敷を結ぶ坂道跡等を確認した。

加賀藩では、貞享 3 年（1686）からの職制改革により、元禄 3 年（1690）以後、藩の重役である年寄衆を八つの家柄（八家）が代々世襲し、月交代で藩の執政を担当、重要事項の決定には合議制を敷き藩政の運営をした。本多家は八家のなかでも最高の 5 万石を知行した。当主が居住し家中政務を執り行った上屋敷は、小立野台地の南西辺約 1 万坪の広さで展開していた。上屋敷に隣接する台地下に当主の別邸である中屋敷、親族及び陪臣居住地である下屋敷地が展開していた。

調査地は、上屋敷跡（石川県立美術館から藩老本多蔵品館付近）から中屋敷跡（市立中村記念美術館付近から市名勝松風閣庭園付近）にかけての小立野台地斜面周辺で、今年度の測量調査範囲は昨年度調査地の南側、「美術の小径」以南にあたり、上屋敷跡の裏手、小立野台地崖上端部を縁取って築造されている塀跡および門跡、門跡から中屋敷方向へと下る坂道、塀跡南端に基壇として築かれた石垣を対象に、測量調査を実施した。また、昨年度測量調査により確認した石川県立美術館裏手から石川県社会福祉会館方面へと下る道跡の土層堆積状況を確認するため、断ち割りの試掘を実施した。

○本多氏屋敷塀跡・門跡・基壇石垣

上屋敷跡裏手（南西側）の斜面上端に沿って、昨年度の南側延長部と考えられる長さ約 100m の塀跡基礎石積が残る。石材の大部分は野石（川原石）だが、カギ状に屈曲する部分の外角や門跡と考えられる部分、塀跡南端部では、赤戸室石を算木積みにしている。今年度測量した塀跡の北端部は、切り土により失われていた。塀跡南端部では、高さ約 1.8m（下部は埋没している）の石垣が基壇として築かれており、石垣両端部は戸室石算木積み下隅石となっている。また、門跡から中屋敷方向へ下るつづら折りの小道跡がみつかり、路肩の土留めとしての 4 条の小規模な石積みが見つかり、いる。

○本多家上屋敷と中屋敷を結ぶ坂道

昨年度確認した門跡から中屋敷方面へ下る道跡のうち、北側へ下る道跡を断ち割る試掘を実施した。土層堆積状況から、道跡と確認できる平坦面は、斜面上部からの崩落土および人工的な盛り土により形成されていることを確認した。



塀跡の石積み



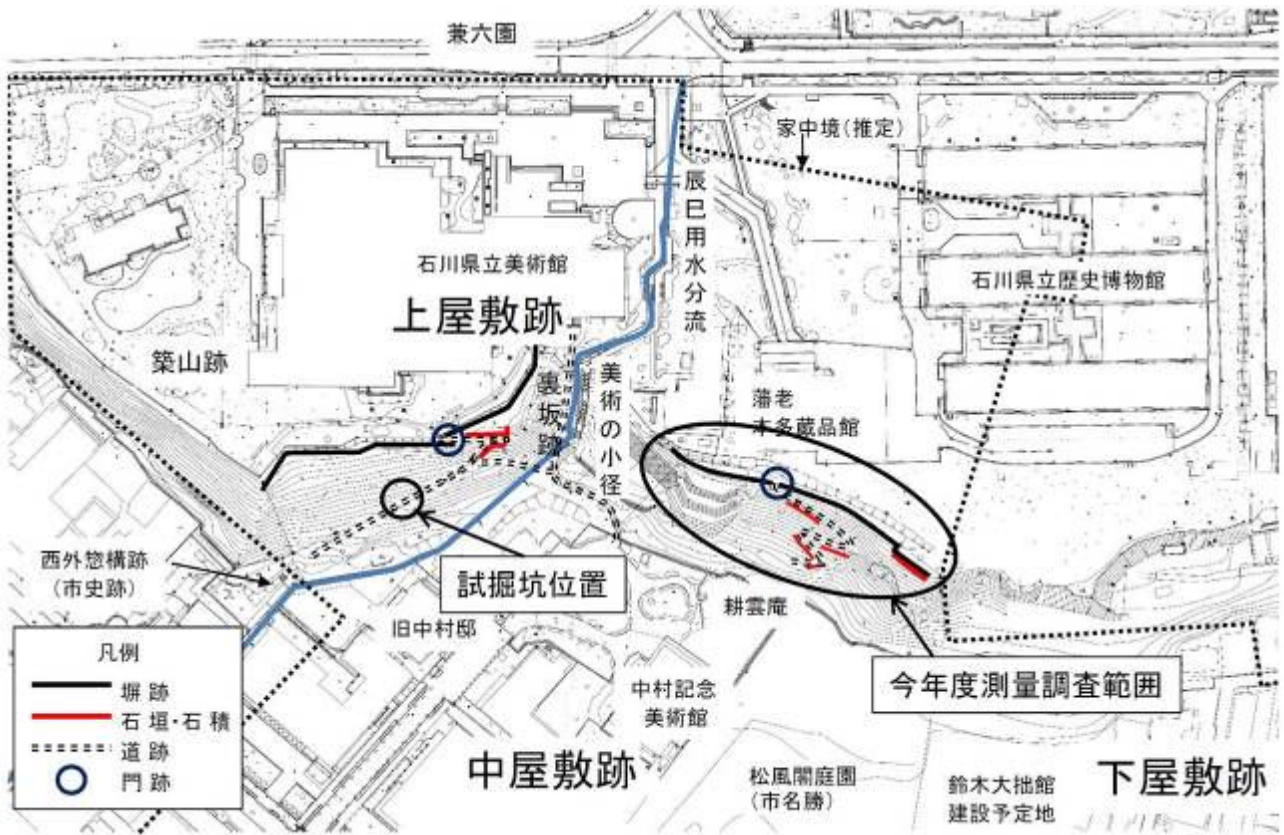
塀跡の石積み(屈曲部)



塀跡の石積み(上)と基壇石垣(下)



門跡



本多家上屋敷関連遺構の分布状況

にしそとそうがまえあと
B. 西外惣構跡（升形地点）

〈遺跡番号 新発見のため番号なし〉

所在地：金沢市本町一丁目地内

北緯 36° 34' 25"

東経 136° 39' 11"

調査面積：100 m²

種別：城下町

主な時代：江戸

担当：庄田 主任主事



遺跡の概要

本市では、金沢城惣構跡について平成 17 年度から学術的な調査をすすめ、平成 20 年 12 月には市史跡として指定している。本調査は西外惣構の重要な防御拠点だった升形の実態を解明する目的で実施された。升形は、主要港である宮腰から来た往還道が惣構と交差する場所で、防御のため堀と土居を曲げて内部に方形の区画を造った城下町の出入口があった場所である。

昨年度までの調査では、升形角部付近の推定約 11m あった堀が、江戸期に 4 段階に分けて石垣を築き埋められていることが判明していた。今年度の第 3 次調査により、北堀の東側には石垣が築かれず、藩政期を通して土手の状態だったことが新たに判明した。また、土居内部の升形空間からは、掘立柱や礎石の建物跡が見つかった。調査成果を時系列にまとめると、下記の通りである。

第 1 期(17 世紀初め～17 世紀後半)…構築当初の升形の堀は、石垣を伴わない素掘りだった。

第 2 期(17 世紀末～18 世紀初め)…西堀の往還道寄りを突堤状に石垣を築いて埋め、この部分の堀幅を約 6m(推定)に狭めた。埋立地には礎石建物を建てている。升形内部に建物が建てられる。

第 3 期(18 世紀前半)…第 2 期石垣前面に新たに石垣を築き堀を埋め、宅地の奥行きを約 4m 延長した。

第 4 期(18 世紀中頃～後半)…升形角部ではさらに北堀側に石垣を築いて堀幅を縮めた。この段階の石垣は、西面で長さ約 17m 以上、北面で約 7m あった。北堀東側の岸は埋め立てられて約 2.5m 狭くなったが、土手となっており、水際には杭を打ち込んで板を土留めとしていた。

第 5 期(明治時代初め～)…堀を埋めて幅約 50～80cm の水路にした。西堀では石垣をそのまま再利用して石組水路としている。堀の埋め土からは、「万延年製」銘の瀬戸染付碗が出土した。



升形北堀東側における素掘りの堀



升形内部における掘立柱・礎石建物跡

わくなみ つつちょうずえんしょうぐらあと
C. 涌波遺跡（土清水塩硝蔵跡）

〈遺跡番号 新発見のため番号なし〉

所在地：金沢市涌波町癸地内

北緯 36° 31' 51"

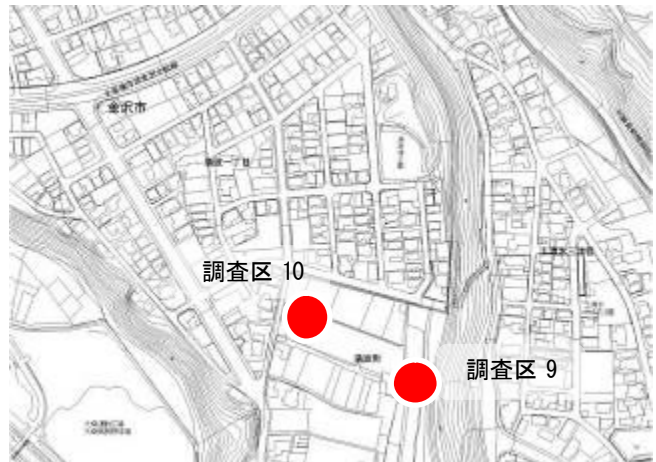
東経 136° 41' 20"

調査面積：100 m²

種別：塩硝蔵跡

主な時代：江戸

担当：谷口 主任主事



遺跡の概要

土清水塩硝蔵は、藩政期において加賀藩が設立した黒色火薬製造施設である。現在の金沢市涌波町、涌波一丁目、土清水一丁目地内に所在し、敷地面積は幕末時点で 11 万m²を超えると推定されている。敷地内には加賀藩領内で生産された黒色火薬の原材料が集積され、敷地内を流れる辰巳用水の水流を利用して原材料を黒色火薬に加工していた。

土清水塩硝蔵は加賀藩の軍事機密に直結するため、残された文献史料も数量が限られている。その中で藩政期当時の姿を描いた絵図類は以下の 4 点が確認されている。

- 絵図 A. 「辰巳用水絵図」 文化 6 年(1809) (石川県立歴史博物館蔵)
- 絵図 B. 「塩硝御蔵御絵図」 天保 3 年(1832) (金沢市立玉川図書館蔵)
- 絵図 C. 「辰巳用水長巻図」 天保 5 年(1834) (石川県立歴史博物館蔵)
- 絵図 D. 「土清水製薬所絵図」 慶応 4 年(1868)頃 (石川県立歴史博物館蔵)

このうち絵図 D は元治元年(1864)着工の土清水塩硝蔵改修工事が竣工した慶応 4 (1868) 年頃の様子を 1/600 の精度で描いた平面図で、土清水塩硝蔵の最終段階の施設状況を良く示す好史料である。同図には、土居と堀によって区画された敷地と、中枢部にさらに堀を廻らせている状況が描かれている。中枢部内には搗蔵、縮具所、調合所、硝石御土蔵 2 棟などの諸施設が描かれており、この場で火薬の製造が行われていたことが示されている。敷地内の西側には役所と記されている施設が描かれており、ここでは管理・事務処理等が行われていたと考えられる。この他、雷管製造に関係すると見られる施設(雷頭製所・雷頭干場)が設置されていることから、洋式銃の規格に対応した弾薬の製造も可能であったと推察される。なお、発掘調査で確認されている遺構は当該時期のものと推定される。

発掘調査は平成 19 年度から実施しており、本年度の調査は第 4 次調査にあたる。本年度は涌波町庚地内の梨畑及び同町癸地内の休耕果樹園内に設けた 2 箇所の調査区で発掘調査を実施した。なお、平成 19 年度の第 1 次調査、平成 20 年度の第 2 次調査、平成 21 年度の第 3 次調査の概要については当該年度の金沢市埋蔵文化財調査年報を参照願いたい。

【平成 19 年度金沢市埋蔵文化財調査年報 [画面用\(PDF 0.99MB\)](#) [印刷用\(PDF 7.05MB\)](#)】

【平成 20 年度金沢市埋蔵文化財調査年報 [画面用\(PDF 1.89MB\)](#) [印刷用\(PDF 14.73MB\)](#)】

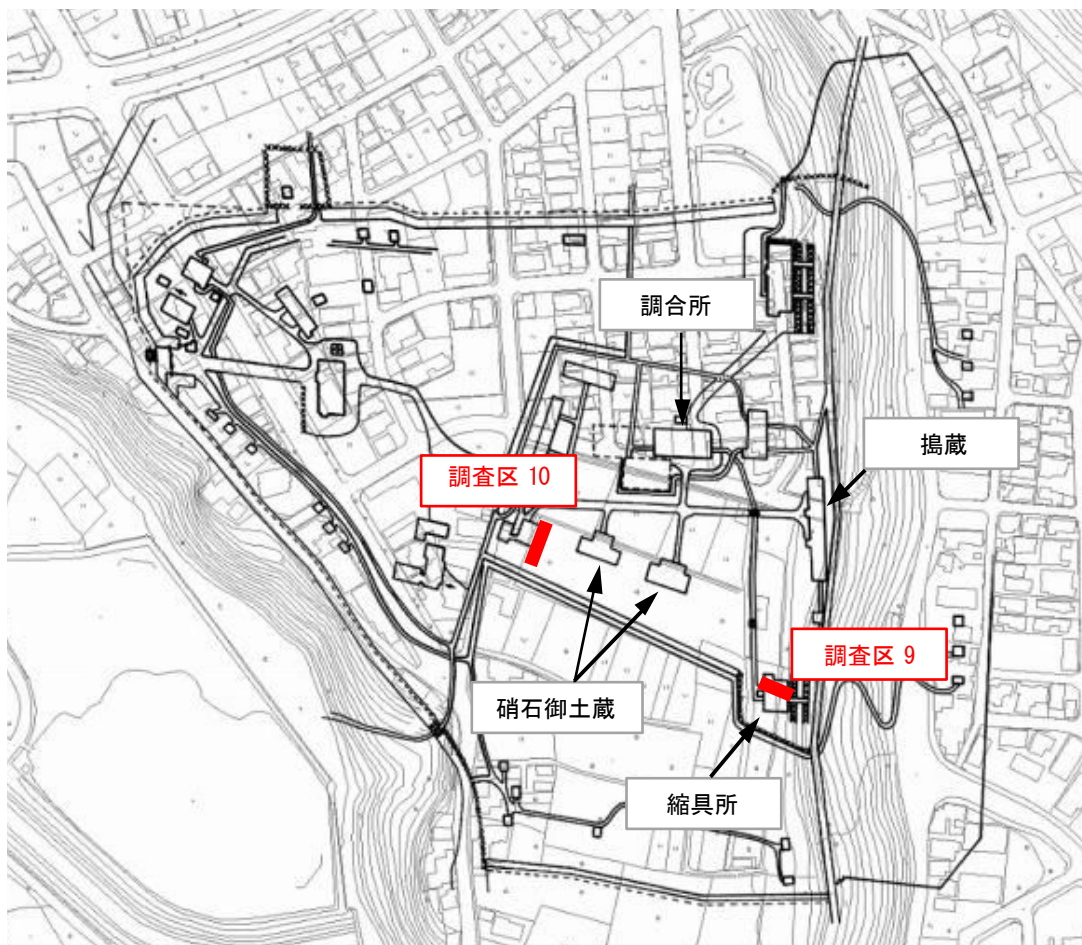
【平成 21 年度金沢市埋蔵文化財調査年報 [画面用\(PDF 9.00MB\)](#) [印刷用\(PDF 22.17MB\)](#)】

調査区 9 は縮具所の遺構確認を目的として涌波町庚地内の梨畑内に設定した調査区である。調査の結果、調査区内で東西方向に走る水路跡①と南北方向に走る水路跡②を確認した。水路跡①は両側に石垣を構築するが石積は最下段のみ残存し、その上方は裏込石が露出する状態である。水路幅は約 1.5m、深さは約 0.8m を測り、底面には砂質土が数 cm の厚さで堆積し、その下位には敷石状に石が配置されるが間隔はややまばらである。水路②は水路①に直行するように南北方向に走る。水路①と同様に石垣を

構築するが、検出は東側の石垣のみである。石垣は下3段が残存し、その上方は石積が撤去され裏込石が露出する。水路幅は2m以上と推定され、深さは約0.9mである。底面には敷石は認められず盛土層が露出し、その上に数cmの砂質土が堆積する。検出時は水路①②ともに水路内に大量の石が投棄された状態であり、施設廃止時に水路内に廃石材を投棄したものと推察される。「土清水製薬所絵図」の縮具所箇所を観察すると、辰巳用水から分流した水路が石垣を通り縮具所内に流れ込み、反対側から2条に分かれて排水されている状況が見て取れるため、恐らく縮具所内で水路が2条に分岐していたものと見られ、検出した水路跡①が建物内で分岐したうちの北側の水路に、水路跡②が縮具所外を北方向に流れる水路に当たるものと思われる。調査区9からの出土遺物はごく僅かで、屋根瓦及び陶磁器片数点のみである。屋根瓦は硝石御土蔵跡地である調査区2～4（第1・2次調査）から出土した本瓦と異なり、棧瓦がほとんどである。

調査区10は硝石置場の遺構確認を目的として涌波町癸地内の休耕果樹園内に設定した調査区である。調査の結果、L字状に設定した調査区の屈曲部で硝石置場の基壇と思われる盛土の一部を確認した。また、基壇の北側は深く落ち込み、大量の礫が投棄された状態で検出された。調査区内のその他の部分では施設の痕跡となりうる遺構は確認されなかった。遺物はほとんど出土していないが、近代以降の開墾時に混入したと思われる奈良時代の土師器碗破片が4点出土している。

計4次にわたる発掘調査の結果、硝石御土蔵2棟、搗蔵、縮具所、硝石置場、堀、道路の遺構と大量の屋根瓦を始めとする遺物が確認された。これらはこれまで主に文献史料によって進められてきた土清水塩硝蔵研究に新たな資料を提供した形となり、土清水塩硝蔵研究は次の段階に移行したと捉えられる。江戸時代の黒色火薬製造所である土清水塩硝蔵は全国的に見ても希有な歴史遺産であり、今後はこれまでの詳細調査成果を検討した上で史跡指定を目指した取り組みを行っていききたい。



土清水塩硝蔵跡主要施設と調査区位置図（絵図Dのトレースと都市計画図の重ね合わせ図）



調査区 9 全景



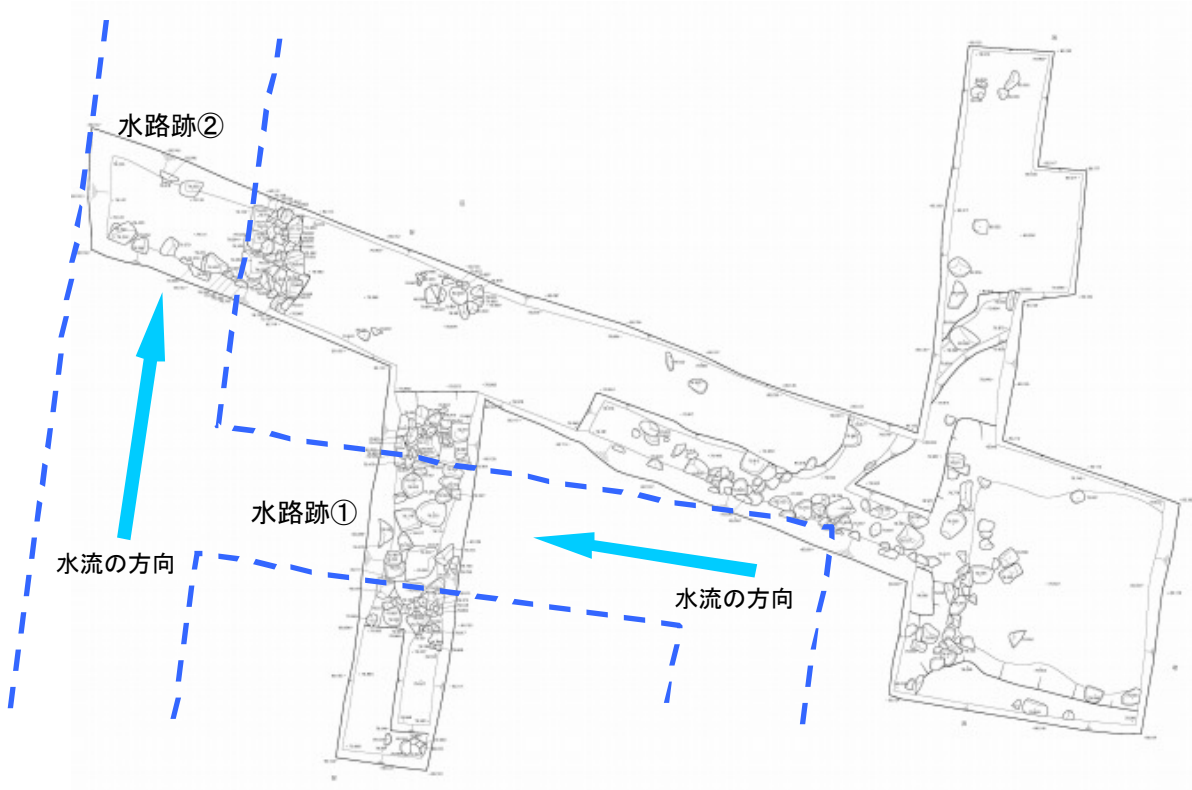
調査区 9 水路跡①



調査区 9 水路跡②



調査区 10 全景



調査区 9 平面図

かがはつかぼしよ
D. 加賀八家墓所(本多家墓所 前田長種家墓所)

〈遺跡番号 - 〉

所在地：金沢市長坂町ル地内（本多家）

金沢市野町三丁目地内（前田長種家）

本多家 北緯 36° 53' 33"

東経 136° 65' 89"

前田長種家 北緯 36° 55' 26"

東経 136° 65' 04"

調査面積：2,400 m²

種別：墳墓

主な時代：江戸

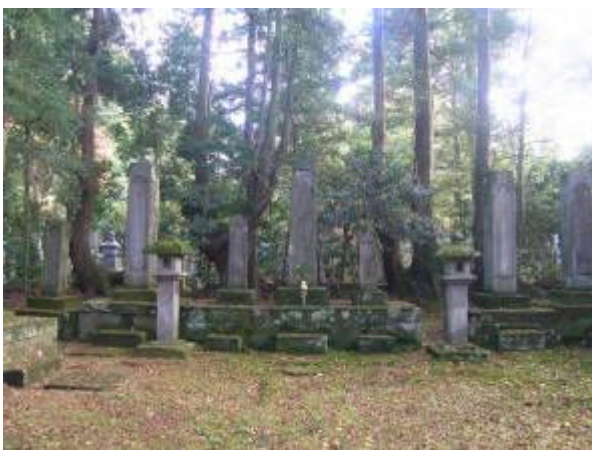
担当：谷口 主査



遺跡の概要

加賀八家とは、加賀藩で元禄3年（1690年）以降、月交代で藩の執政を担当する年寄衆を世襲した本多家、長家、横山家、前田長種家、前田土佐守家、奥村宗家、奥村支家、村井家のことを指す。八家墓所のうち、長家、横山家、前田土佐守家、奥村宗家、奥村支家、村井家の墓所は野田山墓地にあるが、本多家については大乘寺、前田長種家については玉龍寺境内に造営されている。金沢市はこれらの墓所について、平成20年度より史跡指定を目指した各種の調査を実施している。平成20年度と21年度には野田山墓地内の6家墓所について電子平板による測量調査を実施し、墓所内に展開する墳墓・石造物の内容把握を行い、各家ごとの造墓方法に特色があることや、墳丘規模について詳細に把握することができた。21年度には横山家墓所において墳丘周囲を巡る堀の部分2箇所と墳墓に至る参道部分1箇所、「帳付小屋」跡地と推定される平坦面1箇所の、合計4地点について発掘を実施した。発掘調査の結果、堀の本来の規模が把握され、「帳付小屋」跡地での江戸期の遺物の分布を確認することができた。

22年度は本多家墓所と前田長種家墓所について測量調査を実施した。本多家墓所は旧墓所と新墓所の2箇所に分かれていることを把握し、それぞれの墓所で当主墓と室墓、子女墓が計画的に配置されているのが明らかとなった。前田長種家墓所は道路工事のために移設が行われており、現在の配置が江戸期の配置と異なることが玉龍寺に伝わる絵図と照合した結果明らかとなった。



本多家墓所（大乘寺）



前田長種家墓所（玉龍寺）

2. 埋蔵文化財分布調査事業

(1) 平成22年度埋蔵文化財分布調査の概要

金沢市では、公共事業に関する土木工事や建設工事等および民間の開発行為や農地転用の際に、事前に遺跡地図に基づく図面調査、実際の開発予定地における現地踏査、試掘確認調査等を実施し、埋蔵文化財の有無を確認している。

今年度は市施工の公共事業25件、民間の開発行為・農地転用32件について、埋蔵文化財の有無を調査した。以下はその一覧である。このほか、周知の埋蔵文化財包蔵地内における工事に伴うもので、慎重工事及び工事立会での対応となったものは別表のとおりであった。

■ 公共事業に係る埋蔵文化財調査一覧

ID	場 所	事 業 名	担 当 課	回 答 日	面 積	調 査 方 法	有 無	対 応
1	西金沢一丁目・二丁目地内	西金沢駅周辺整備事業	都市計画課	6月2日	0.5ha	試掘	無	支障なし
2	兼六元町7番15号	準用河川源太郎川流域貯留施設設置工事	内水整備課	7月22日	650㎡	試掘	有	H23発掘調査予定 (金沢城下町遺跡(兼六元町7番地点))
3	鳴和町地内	鳴和町線道路改良工事	道路建設課	7月26日	300㎡	踏査	無	支障なし
4	平栗町地内	窪・倉ヶ嶽線道路改良工事	道路建設課	7月26日	1,000㎡	踏査	無	支障なし (高尾城跡)
5	曲子原地内	高坂・松根線道路改良工事	道路建設課	7月26日	780㎡	踏査	無	支障なし
6	岩出町地内	岩出町地内道路改良工事	道路建設課	7月26日	780㎡	踏査	無	支障なし
7	上安原町地内	上安原町地内道路改良工事	道路建設課	7月26日	180㎡	踏査	無	支障なし
8	館山町地内	土清水・上辰巳線道路改良工事	道路建設課	7月26日	1,500㎡	踏査	無	支障なし
9	今昭町・宮保町地内	今昭町地内道路改良工事	道路建設課	7月26日	600㎡	踏査	無	支障なし
10	直江野町地内	直江野町地内道路改良工事	道路建設課	7月26日	500㎡	踏査	無	支障なし
11	清川町地内	犀川左岸(桜橋)	道路建設課	7月26日	2,300㎡	踏査	無	支障なし
12	下谷町・菅池町地内	さとやま幹線林道改良工事	森林再生課	8月25日	2,100㎡	踏査	無	支障なし
13	山川町地内	作業道山川線開設工事	森林再生課	8月25日	4,000㎡	踏査	無	支障なし
14	湯涌荒屋町地内	作業道湯涌荒屋2号線開設工事	森林再生課	8月25日	9,000㎡	踏査	無	支障なし
15	片町二丁目169番 外5筆	まちなか学生交流街拠点整備事業	歴史建造物整備課	9月9日	400㎡	試掘	有	H23発掘調査予定 (片町二丁目遺跡(5番地点))
16	荒屋町・弥勒町地内	雨水幹線設置工事	内水整備課	9月21日	600㎡	試掘	無	支障なし
17	金石一丁目地内(金石中学校内)	雨水浸透施設設置工事	内水整備課	10月26日	175㎡	試掘	無	支障なし (金石東遺跡)
19	本多町61番1	学術調査	文化財保護課	11月4日	12㎡	試掘	有	(本多氏屋敷跡)
20	涌波町筥3番1,庚13番	学術調査	文化財保護課	11月25日	100㎡	試掘	有	(涌波遺跡)
21	鳴和二丁目地内(鳴和中学校)	鳴和中学校地下貯留施設設置工事	内水整備課	12月13日	1,600㎡	試掘	無	支障なし
22	飛梅町148(紫錦台中学校)	紫錦台中学校地下貯留施設設置工事	内水整備課	2月14日	690㎡	試掘	有	H24発掘調査予定 (飛梅町遺跡)
23	近岡町地内	海側環状道路建設(近岡地区)	道路建設課	2月8日	43,000㎡	試掘	有	H23~H24発掘調査予定 (大友A遺跡)
24	大友町地内	海側環状道路建設(近岡地区)	道路建設課	2月8日		試掘	有	H23~H24発掘調査予定 (大友E遺跡)
25	直江町地内	海側環状道路建設(近岡地区)	道路建設課	2月8日		試掘	有	H23~H24発掘調査予定 (直江西遺跡)

■ 民間の開発行為に係る埋蔵文化財調査一覧

ID	場 所	行 為 の 内 容	申 請 日	回 答 日	面 積	調 査 方 法	結 果	対 応
1	緑が丘173番	分譲宅地造成	4月28日	5月7日	4,200.60㎡	試掘	無	支障なし
2	新保本三丁目118番2 外1筆	分譲宅地造成	5月7日	5月14日	1,412.37㎡	試掘	無	支障なし
3	三十蒔町乙66番 外4筆	共同住宅建設	5月6日	5月14日	1,165.00㎡	試掘	無	支障なし
4	大浦町又73番1 外3筆	保育園建設	5月10日	5月19日	3,941.57㎡	試掘	無	支障なし
5	田上本町へ171番 外13筆	資材置場建設	5月18日	5月28日	2,607.00㎡	試掘	無	支障なし (館山遺跡)
6	三池町136番1 外3筆	分譲宅地造成	5月24日	6月1日	998.97㎡	試掘	無	支障なし
7	三馬二丁目120番 外9筆	分譲宅地造成	5月21日	6月1日	2,191.00㎡	試掘	無	支障なし
8	新保本三丁目84番2 外13筆	店舗建設	5月26日	6月2日	5,738.00㎡	試掘	無	支障なし
9	寺町一丁目482番1	分譲宅地造成	5月26日	6月3日	1,629.00㎡	試掘	無	支障なし
10	南塚町232番1	駐車場造成	6月2日	6月7日	528.00㎡	試掘	無	支障なし
11	法光寺町129番	駐車場造成	7月8日	7月22日	835.00㎡	試掘	無	支障なし (法光寺遺跡)
12	もりの里三丁目72番	個人住宅建設	7月5日	8月11日	262.00㎡	試掘	無	支障なし (鈴見遺跡)
13	加賀朝日町参字37番 外5筆等	山土採取	8月5日	8月17日	6,710.00㎡	踏査	無	支障なし
14	駅西本町二丁目209番	個人住宅建設	8月2日	8月24日	413.87㎡	試掘	無	支障なし (二口町遺跡)
15	畝田東一丁目40,41番	分譲宅地造成	8月20日	8月27日	1,368.00㎡	試掘	無	支障なし
16	新保本三丁目114番 外3筆	駐車場造成	8月27日	9月1日	2,330.00㎡	試掘	無	支障なし
17	四十万三丁目262番 外9筆	社会福祉施設建設	9月29日	10月5日	2,582.00㎡	試掘	無	支障なし
18	緑が丘396番1	分譲宅地造成	10月18日	10月27日	1,800.00㎡	試掘	無	支障なし
19	直江町イ54番1 外4筆	区画整理	10月27日	—	3,600.00㎡	試掘	無	支障なし
20	有松二丁目137番	分譲住宅建設	9月17日	11月2日	1,531.24㎡	試掘	無	支障なし
21	薬師堂町イ12番2 外4筆	分譲宅地造成	10月29日	11月9日	1,509.25㎡	試掘	無	支障なし
22	畝田中四丁目125番 外1筆	共同住宅建設	11月4日	11月12日	1,363.00㎡	試掘	無	支障なし
23	御影町292番1 外1筆	分譲住宅建設	11月15日	12月1日	4,071.53㎡	試掘	無	支障なし
24	四十万町リ39番1 外 筆	分譲宅地造成	1月11日	1月19日	1,384.06㎡	試掘	無	支障なし
25	北町乙36番	分譲宅地造成	1月21日	1月25日	786.00㎡	試掘	有	H23発掘調査予定 (北町遺跡)
26	高島一丁目321番	分譲宅地造成	2月2日	2月4日	295.00㎡	試掘	無	支障なし (高島遺跡)
27	藤江南二丁目15番	分譲宅地造成	2月15日	2月18日	434.80㎡	試掘	無	支障なし (藤江A遺跡)
28	吉原町ヨ47番	個人住宅建設	2月18日	3月4日	172.86㎡	試掘	無	支障なし (吉原法華堂古墳群)
29	森戸一丁目189番	個人住宅建設	3月3日	3月4日	101.85㎡	試掘	無	支障なし (森戸住宅遺跡)
30	神谷内子151番1 外12筆等	グループホーム建設	3月8日	3月18日	2,002.59㎡	試掘	無	支障なし
31	駅西本町五丁目1101番 外9筆	倉庫建設	11月18日	3月30日	7,269.00㎡	試掘	有	協議中 (二口六丁A遺跡)
32	北町乙47番2	分譲住宅建設	3月17日	3月30日	330.00㎡	試掘	有	協議中 (北町遺跡)

■ (別表) 土木工事のための発掘届・発掘通知一覧

ID	届・通知の別	場 所	行 為 の 内 容	届出日	取 扱 通知日	面 積	遺 跡 名	対 応
1	93条(届)	中屋一丁目47番	個人住宅建設	4月1日	4月1日	201.00㎡	中屋ヘシタ遺跡	工事立会
2	93条(届)	三社町114番3	個人住宅建設	4月12日	4月15日	219.06㎡	三社町遺跡	慎重工事
3	93条(届)	木曳野土地区画整理事業 施行地区内29街区2番	個人住宅建設	4月12日	4月15日	186.13㎡	畝田・寺中遺跡	工事立会
4	93条(届)	米泉町二丁目37番2	個人住宅建設	5月7日	5月10日	123.97㎡	米泉遺跡	工事立会
5	93条(届)	木曳野土地区画整理事業 施行地区内26街区20番1	個人住宅建設	5月11日	5月13日	200.00㎡	寺中B遺跡	工事立会
6	93条(届)	西金沢五丁目307番1の一部	個人住宅建設	5月14日	5月19日	149.73㎡	保古町遺跡	工事立会
7	93条(届)	木曳野土地区画整理事業 施行地区内40街区1番	個人住宅建設	5月18日	5月19日	154.49㎡	畝田・寺中遺跡	工事立会
8	93条(届)	木曳野土地区画整理事業 施行地区内40街区26番	個人住宅建設	5月25日	5月25日	154.49㎡	畝田・寺中遺跡	工事立会
9	94条(通知)	広坂二丁目1番	埋設管の更新・補強	6月10日	6月3日	19.20㎡	金沢城跡	慎重工事
10	93条(届)	大桑二丁目239番外3筆	共同住宅建設	6月22日	6月23日	624.51㎡	大桑アナグチ遺跡	慎重工事
11	93条(届)	木曳野土地区画整理事業 施行地区内50街区11-1番	個人住宅建設	6月28日	6月30日	167.00㎡	桂町南遺跡	工事立会
12	93条(届)	木曳野土地区画整理事業 施行地区内40街区4番	個人住宅建設	8月12日	8月13日	154.50㎡	畝田・寺中遺跡	工事立会
13	93条(届)	木曳野土地区画整理事業 施行地区内40街区23番	個人住宅建設	8月12日	8月13日	154.49㎡	畝田・寺中遺跡	工事立会
14	93条(届)	高尾町ウ31番1	高尾城跡見晴台 遊歩道設置	8月20日	8月20日	300.00㎡	高尾城跡	工事立会
15	93条(届)	木曳野土地区画整理事業 施行地区内44街区8-1番	分譲住宅建設	9月3日	9月6日	153.00㎡	畝田・寺中遺跡	工事立会
16	93条(届)	木曳野土地区画整理事業 施行地区内44街区7番	分譲住宅建設	10月5日	10月6日	152.00㎡	畝田・寺中遺跡	工事立会
17	93条(届)	木曳野土地区画整理事業 施行地区内44街区8-2番	分譲住宅建設	10月5日	10月6日	155.00㎡	畝田・寺中遺跡	工事立会
18	93条(届)	堅田町ヌ5番3外2筆	遊歩道整備	10月18日	10月19日	250.00㎡	堅田城跡	工事立会
19	93条(届)	田上第五土地区画整理事業 施行地区内13街区13番	個人住宅建設	11月8日	11月10日	170.00㎡	田上北遺跡	工事立会
20	93条(届)	花園八幡町口20番11	個人住宅建設	1月6日	1月7日	150.75㎡	花園八幡遺跡	工事立会
21	93条(届)	木曳野土地区画整理事業 施行地区内26街区22番	個人住宅建設	2月9日	2月10日	151.33㎡	寺中B遺跡	工事立会
22	93条(届)	矢木二丁目350番1の一部	分譲住宅建設	3月29日	3月30日	107.32㎡	矢木マツノキダ遺跡	工事立会
23	93条(届)	丸の内40番	宅地造成	3月29日	3月30日	110.45㎡	金沢城跡	工事立会

(2) 外環状道路（都市計画道路 福久・福増線）建設事業に伴う埋蔵文化財試掘確認調査報告

金沢市都市整備局土木部道路建設課より標記の埋蔵文化財の試掘確認調査の依頼があったので、平成22年3月30日、平成23年2月8日の2日間にわたり、近岡町、大友町、直江町でミニユンボにより実施した。

試掘調査結果は、周知の埋蔵文化財包蔵地で、隣接する区画整理事業（大友地区、直江地区）で発掘調査を実施した大友E遺跡（古墳・古代）、直江西遺跡（古墳）の拡がりを確認した。本調査は平成23～24年度に実施予定である。

各試掘調査地点の詳細は表にまとめた。番号は試掘地点を示し、図中のそれと一致する。cmは地山までの深さ、-は地山面までの深さの未確認のもの、×は遺構・遺物共に発見されなかったことを示す。

■ 試掘地点の状況

番号	cm	遺構	遺物	番号	cm	遺構	遺物	番号	cm	遺構	遺物
1	20	×	×	11	20	小穴	土師器	21	-	溝	土師器
2	30	×	×	12	20	小穴	×	22	50	×	×
3	20	×	×	13	40	×	×	23	45	小穴	土師器
4	-	×	×	14	30	×	×	24	20	小穴	土師器
5	-	×	×	15	20	×	×	25	20	×	×
6	45	×	×	16	20	×	×	26	20	小穴	須恵器 土師器
7	-	×	×	17	100	×	×	27	25	×	×
8	50	×	×	18	30	小穴	土師器	28	40	小穴	弥生土器
9	40	小穴	弥生土器	19	30	小穴	×				
10	25	×	×	20	-	溝	瀬戸焼 土師器				



試掘箇所と各遺跡の範囲

3. 教育・普及・啓発活動事業

(1) 歴史ふれあい講座

当センターでは平成 12 年度より、職員が市内の小学校へ出向き、郷土の歴史と埋蔵文化財について小学校 6 年生に講義を行う「歴史ふれあい講座」を行っている。

講座内では貫頭衣の試着、石を使ってのくるみ割り、縄文～古墳時代の遺物見学、最後に火起こしまたは勾玉作りの体験がある。さらに現在の生活と文化財との接点を意識してもらえるよう、各小学校の

校区内に所在する文化財や埋蔵文化財包蔵地を記した「文化財マップ」を配布し、校区内の遺跡から発掘された出土品を展示している。この内容で、1 講座 100 分を所要する。

今年度は 4 月 19 日の野町小学校から始まり、6 月 4 日の額小学校に終わる 27 校で開催した。うち 15 校が火起こしを、11 校が勾玉作りを、1 校は勾玉作りも火起こしも行わない短時間のコースを行った。参加児童数は 1,947 名で、平成 12 年度からの累計は 16,382 人となった。

今年度は市が育成した文化財ボランティア「うめばちの会」に、講座の補助を一部お願いした。

開催後、12 校から歴史ふれあい講座の感想文が提出された。その一部と体験を通して児童に生まれた素朴な疑問を紹介する。

■**クルミ割り** クルミを割るのがこんなに大変だとは思わなかった。本当に石で割っていたのか。

■**文化財マップ** 校区にいろいろな時代の遺跡があることがわかった。自分でも探してみたいくなった。家族に校区内で遺跡が見つかっていると云ったら、とてもびっくりしていた。

■**遺物見学** 縄文時代の土器は飾りがたくさんあって派手なのに、なぜ弥生時代になると模様を付けなくなったのか不思議。石庖丁はあれで本当に刈れるのかな。ガラス玉にどうやって穴をあけたのだろう。どうやって石器をつるつるに削るのだろう。

■**火起こし** 火を起こすのはとても大変だった。火を使ってどんな料理をしたのだろう。縄文時代の人は最初はなにもないのによくそんなことができたなと思った。

■**勾玉** 勾玉は偉い人しかかけていないのが不思議。昔の人はどうやって勾玉を作ったのかな。勾玉はなぜこんな形なのか、なぜあったのか、なんのために使われていたのか。

■**全体** 竪穴住居は雨漏りしたり雪の重みでつぶれたりしないのだろうか。寒さを防ぐためや怪我をしたときに、どんな工夫をしていたのだろう。クジラやイルカをどうやって獲っていたのだろう。古墳は大きいもので造るのにどれくらいの期間がかかるのだろう。

《過去5年間の事業実績》

実施年度	学校数	講座数	児童数
平成18年度	23	51	1,708
平成19年度	28	58	1,941
平成20年度	28	62	2,063
平成21年度	20	46	1,520
平成22年度	27	57	1,947



クルミ割り体験



火起こし体験

(2) 市民ふるさと歴史研究会

当センターでは、一般市民を対象に埋蔵文化財に対する理解と愛護精神の醸成を目的として、発掘調査の成果を解説する講座「市民ふるさと歴史研究会」を平成16年度より年1、2回開催している。今年度および近年の概要は以下のとおりである。

今回の内容は、今年度発掘された「出雲じいさまだ遺跡」の発掘調査に基づくものである。昨年に引き続き、年度内に発掘された遺跡を対象とし、当該遺跡出土品や市内から発掘されている玉づくり関連遺物の展示を併催した。講演には石川考古学研究会代表幹事の河村好光氏を講師として招いた。会場は石川県立美術館広坂別館を使用した。

第11回 「玉づくりから見る金沢の古墳時代」

会場：石川県立美術館 広坂別館 ホール

開催日：平成23年2月27日（日）

内容：講演「邪馬台国時代の金沢平野」 河村好光氏（石川考古学研究会代表幹事）
 報告「出雲じいさまだ遺跡の発掘調査」 前田主任主事（金沢市埋蔵文化財センター）

参加者：約80人

《過去5年間の事業実績》

実施年度	回数	タイトル	対象となった遺跡・史跡
平成18年度	6	金沢の遺跡は語る	福増カワラケダ遺跡 南新保北遺跡
	7	荘園の考古学	上荒屋遺跡
平成19年度	8	金沢の城下町遺跡は語る	加賀藩主前田家墓所 金沢城惣構跡 広坂一丁目遺跡
平成20年度	9	水辺に暮らす縄文人	中屋サワ遺跡
平成21年度	10	加賀八家本多家の歴史と 上屋敷周辺の発掘報告	本多氏屋敷跡
平成22年度	11	玉づくりから見る金沢の古墳時代	出雲じいさまだ遺跡 ほか



講演



遺物見学

(3) 史跡活用事業

一般市民に郷土の歴史・文化と埋蔵文化財についての理解を深めてもらうことを目的に各種イベントを開催、これらを通じて文化財愛護の精神を培う機会の創出を目的としている。対象は小学校高学年から中学生およびその保護者を主とし、親子がふれあう機会を提供する場にもなっている。各イベントの実施概要は以下の通りである。

なお、開催にあたっては石川県史跡整備市町協議会から助成金をうけている。

【史跡フェスタみわ】

国指定史跡東大寺領横江荘遺跡上荒屋遺跡の奈良・平安時代の初期荘園の風景を再現した上荒屋史跡公園を会場に、奈良・平安時代の生活体験イベントを平成9年度より行っている。

実施日：平成22年7月24日（土）

主な内容：古代衣裳試着体験 古代食試食体験
火起こし体験 勾玉作り 土器作り
まゆ糸取り体験 等

参加者：約120名

委託先：金沢市三和公民館振興協力会



復元荘家の前で古代衣裳試着

【チカモリ学習会】

チカモリ縄文まつりの一環として、地域の方々にチカモリ遺跡および縄文時代の生活について理解を深めてもらうため、下記のとおり学習会を開催した。

実施日：平成22年7月17日（土）

主な内容：縄文時代の生活の様子について

講師：谷口主査（金沢市埋蔵文化財センター）

参加者：約40名



火起こし体験

【チカモリ縄文まつり】

国指定史跡チカモリ遺跡の縄文時代の遺構を復元したチカモリ遺跡公園を会場に、縄文時代の生活を体験するイベントを平成7年度より行っている。

実施日：平成22年8月1日（日）

主な内容：火起こし体験 勾玉作り 土器作り
縄文食試食体験 クルミ割り体験
編み物体験 縄文クイズ
アイヌ文化講演会 等

参加者：約300名

委託先：金沢市西南部公民館振興協力会



勾玉作り体験

(4) 現地説明会

発掘調査の成果を市民に還元する方法の一つとして、発掘調査現地説明会がある。実際に発掘調査を行っている現場を直に見学する現地説明会は、埋蔵文化財を身近に感じることのできる最良の方法の一つである。

今年度は、西外惣構跡（升形地点）、涌波遺跡（土清水塩硝蔵跡）の2カ所において現地説明会を開催した。開催概要は下表のとおりである。

各遺跡の概要については、本書1(3) および(4)を参照してほしい。

《現地説明会開催一覧》

遺跡名	場 所	開催日	対象	参加者数
西外惣構跡 （升形地点）	金沢市本町地内	平成22年12月11日	地元住民	約50名
涌波遺跡 （土清水塩硝蔵跡）	金沢市涌波町地内	平成22年12月12日	地元住民	約40名

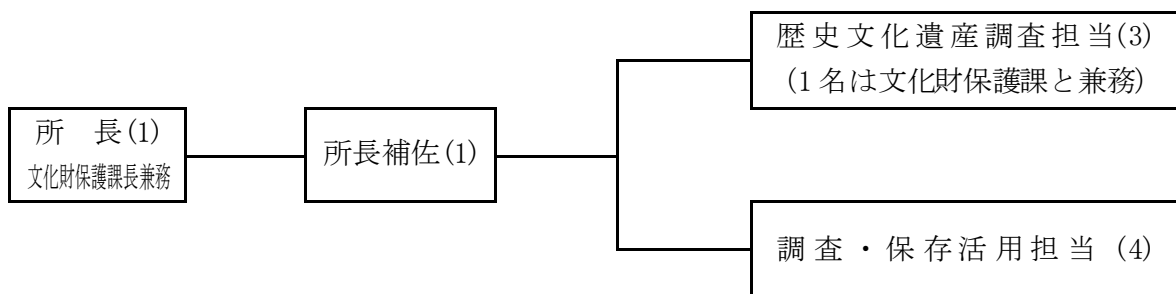


西外惣構跡（升形地点） 遺構の説明



涌波遺跡（土清水塩硝蔵跡） 遺構の説明

4. 組織



平成 22 年度

金沢市埋蔵文化財調査年報

平成 23 年(2011 年)3 月 31 日発行

発 行 金沢市
編 集 金沢市埋蔵文化財センター
〒920-0374
金沢市上安原南 60
TEL 076-269-2451
FAX 076-269-2452